

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

新しい都会に (中野中だより)

平成 29 年 6 月 1 日発行
No. 3 校長 矢口 仁

ペップトークのすすめ — 励ます言葉 — 校長 矢口 仁

どの色となく今我に薔薇の風 山本 歩禅

校庭には「アンネのバラ」が美しく咲いてまいりました。このバラは、杉並区立高井戸中学校から中央中学校へ、そして中野中学校へと受け継がれました。

ユダヤ人だという理由だけで迫害を受けたアンネ・フランクの父、オットー・フランクが日本に伝えたバラです。本校では「人権尊重の教育」のシンボルとして、ボランティアの生徒たちが中心となり、大切に育てています。



さて、今回は「ペップトーク」についてです。もともとは、スポーツの指導者が選手たちを励ますためのものでした。アスレチックトレーナーの岩崎由純さんがアメリカで学んだ「勇気を与える感動のスピーチ」というのを日本に持ち込み、家族や仲間伝えるコミュニケーションスキルとして確立されたものです。

ペップ(pep)は「元気」「勇気」の意味で、ペップトークは、試合が始まる直前に行う監督やコーチが選手を前向きな気持ちにさせるためのショートスピーチでした。

岩崎さんの講演を聞いた中学生の母親の話を紹介します。子どもが定期考査で 28 点を取って帰ってきました。それまでは「何してたの。ちゃんと勉強したの。」と、きつい口調で叱っていたのですが、講演を聞いた後は、「今回は 28 点。まだ 72 点も伸びしろがあるんだから、次は 1 点でもいいから伸ばしてごらん。」と励ますように言ったそうです。その言葉を境に、その子は勉強に身を入れるようになり、成績が少しずつ上がっていったとのこと。子どもを前向きな気持ちにさせた一言でした。

ペップトークの根底には、伝える側に「あるがままを認める」「今ある力を大切にすること」があります。それは、「承認する＝受け入れる」ということにつながります。大切な局面で、相手がどのような立場、状況、心境になっているかを受け入れて、適切な言葉をかけることが大切だと岩崎さんは言います。大切な試合前に緊張で震えている選手に対して、「震えているのは、君が本気になっている証拠だよ。この試合が自分にとって大切だとわかっているんだね。」という承認の言葉によって、選手は監督に受け入れられたと感じ、心が落ち着いてくるというのです。

6 月 3 日 (土) は運動会です。お互い、相手の立場を認め合い、励まし合って、気持ちのよい一日にしたいと思います。ベストコンディションで臨みましょう！